第 2 編

|| 救急医療の充実 (平成元年~9年)

第1章 救命救急センター本格稼働

増改築工事起工式・安全祈願祭が行われた。 救命救急センターの充実は県民、市民が待ち望んでいた。立派な施設完成が待ち遠しい」と述べた。 元号が 同年9月に救命救急センター棟増改築工事を委託。 高度医療機器を新たに導入し、 「平成」に変わった年の秋、 体制の充実・強化を図るのが目的だ。 いよいよ救命救急センター棟増改築工事がスタートする。 現在、 各病棟に分散しているセ 翌10月11日、 本館南側敷地内で救命救急セ 起工式では、 ンター の施設を統合する 赤崎義則市長が ンター棟

部 6 8 0 で通り分散した各病棟で対応した。 医 に改称した。 療機器分5億円を含めて総工費は約22億円。 0人減少、収益面で約1億70 2年度の救命救急センター棟の工事施工と本館の関連工事等により、 00万円の減収が見込まれた。 平成2年9月には、 この間、 「救命救急センター」 救命救急センターはそれま 入院患者が延べ を 救急

新センター棟が誕生

7 階、 平成3年2月、 地下1階建て。 救命救急センター棟工事が完了した。 建築面積746平方以、延べ床面積5088平方以。 新センターの建物は、 集中治療室の6床を含めて 鉄筋コンクリー ト造り地上

る ベ ッド 0 が 数は 30床で、 ほかに一般病棟用として6、7階に47床ある。 患者の症状に応じて一元的に対応でき

滅菌装置等設置による中央材料室の充実も図られた。3月10日以降オープンすることになった。 中央手術室や4階の特定集中治療室に移され、5階の病床で回復までしばらく入院するシステムだ。 に増える手術室は、 ニター 新 と ンターでは、 ビ付き脳 高性能 外科用手術顕微鏡や天井懸垂式X線装置など最新設備が導入された。 運ばれてきた患者はまず1階で必要な緊急検査などを実施する。 フィル ターを設け無菌状態になるほ か、 県内では初めて (全国で4台目) 診断 さらに高圧 をもとに2階の のモ 9 室

ら地 スイスの都市より優れ、 2 月 郎県医師 市民、 勝るとも劣らない立派な施設だ。 域医療計 20 日 会長 県民の期待に沿えるよう職員一丸となって重症患者の治療に当たりたい」とあ 約 1 0 一画に基づく救命救急センター設置の要請を受け、 は 「世界20 0人が 最高水準だ」 出席 カ所以上の救急施設を視察して回ったが、 して開かれた記念式典では、 特に と高く評価した。 (99・99%の空気中のゴミを除く)無菌室は、 時任純孝院長らが 県 医師会の援助を得て最 機能、 設備、 昭 和 59 V ろんな角 年 Ń 新 1月 いさつ。 の設 に のきれ 度 備を備え 県 鮫島耕 かか 知 ら見 事 か

ほ 1945人となり25 か 新 脳 センター 血 ンタ 管障害、 0 は 稼働で患者数は、 循環器疾患、 %の増加となった。 ICU室に中央監視システムを導入して3年10月から本格稼働させたが、 小児科の患者などである。 3 月から7月までの5カ月間 主な症例は、 頭部外傷、 心肺停止 内臟外傷、 で平成2年は の患者を救命できたケース 身体各部の骨折、 1556人、 多発外 看護師 to 同 数例 3 不足 年 傷 あ は 0 つ

事務局 は 引き2億8700万円の赤字。 薗正司事務局 ッ 深刻で当初 F 長は も増 やしていく」と話した。 「(県への補助金申請による) 長は 計 画 「ベ . の 30 床 ッド数減はあくまでも緊急措置。 か 5 28 県からは7413万円の補助を受け、 床に減らし、 3年度の救命救急センターの収支について、4年9月の市 収入が約3億8000万円、 看護師 の夜勤増などで乗り切る苦肉 今後、 既卒の看護師の採用を行い、集まり次第、 残り2億円余りを一般会計から繰り 費用が約6億6700万円で差し 0 スタートとなった。 議会で大薗 大

入れをいただいた」と答弁した。



誕生した救命救急センター